

久々野峠越え (越後支部 80 周年記念事業・山岳古道調査)

- 期 日:2024年6月30日(日) 曇りのち雨
- 参加者:CL 後藤正弘、SL 茂野伸行、知野勇人 3名 この他高田ハイキングクラブ
パーティー 5名
- 地 図:国土地理院 1/25000 猿橋、野沢温泉
- コースタイム
柄山口駐車場 8:00~9:10 展望台 9:20~黒倉山 10:15~10:40 鍋倉山 11:00~久々
野峠 11:10~12:05 巨木の谷 12:30~13:20 巨木の谷登山口

久々野峠越え

久々野峠越えは、関田山脈の峠道の中でもマイナーな古道である。代表的な峠道は、歴史的にも古く、語り継がれるエピソードも多いが、県道や林道として改修され舗装道となってしまった。残された古道も藪と化し道筋も判然としないありさまだ。

一方、久々野峠越えや梨平峠越えは、限られた地域の生活道として利用された古道で、文献などには詳しい記述が見られないが、一帯には広大なブナ林が多く、豊かな自然と古道の面影を色濃く残している。

上越市板倉区総合事務所から約 14 km、上久々野そして柄山を經由した黒倉山の麓に駐車場がある。ここに車をデポ、舗装された林道を 6~7 分歩くと山道に入る。最近草刈りが終わったばかりの山道を 30 分辿ると、松之山の美人林を思わせるブナの森が広がっている。



山道の入口



柄山のブナ林

ブナ林を抜けると低灌木帯となって植生が変化する。これは雪崩や土砂崩壊の到達地点と考えられる。つづら折りの山道を登っていく、窓が 2 か所ほどあるので覗いて景色を楽しむとよい。この辺りは春の山菜、秋にはきのこやサル梨、山ぶどうが楽しみなところだ。展望台に出ると日本海から南葉山地、光ヶ原や坊ヶ池そして米山まで見ることができる。



低灌木帯



展望台

ここから黒倉山南西尾根を回り込み、広大なブナの森をトラバースぎみに久々野峠へ。峠を左に曲がり黒倉山の展望を楽しんでから、戻って鍋倉山へ登る。積雪期は素晴らしい展望が広がるが、今は低灌木に覆われ、壊れた社と標柱が迎えてくれるだけだ。

少し休憩していると雨となったので雨具を着けて、「巨木の谷」へと向かう。鍋倉山東面は長野県であるが、一帯はブナの原生林で大きなブナが多いことから「巨木の谷」と言われている。

この谷のシンボル「森太郎」の巨樹が、昨年5月上旬に倒伏したと聞いていた。説明板には「推定樹齢300年以上、樹高25m、幹回り5.34m」と書かれている。「森太郎」が見つかったのは1986年(昭和61年)、一帯の国有林伐採計画とリゾート開発構想が浮上し、伐採か保護かで激しい論争に発展したが、市民による自然保護運動により伐採を免れた。幹途中から倒伏していたが、今もって威厳と風格を保っていたのは驚きだった。

ブナの癒しの森でランチタイム、雨がしのげる森を歩いて「トトロの森」入口のような登山口へ出ると一気に明るくなり景色が広がった。



昨年5月上旬に倒伏した「森太郎」

関田山脈と 16 の峠道

新潟県と長野県境にある関田山脈の尾根には、信越トレイルと呼ばれる斑尾山(1,381.8m)から天水山(1,088m)まで約 80 km のロングトレイルがある。2008 年に全線が開通したが、2021 年に苗場山まで 30 km が延伸された。現在、全長 110 km の日本有数のロングトレイルとなっている。

しかし、関田山脈には古来より越後と信州の人々の生活・文化を支えた重要な交易路として 16 の峠道がある。北から深坂峠、野々海峠、須川峠、伏野峠、宇津ノ俣峠、牧峠、梨平峠、関田峠、筒方峠、久々野峠、小沢峠、平丸峠、北峠、富倉峠、柏ヶ峠、万坂峠などの峠道である。

これらの峠道を代表するのは三つある。一つは、ひるこ道と呼ばれる牧峠である。直江津浜から柿崎浜で製塩された「犀浜塩」の「塩の道」として、草生水文化の面影を残し、近年はイヌワシ舞う峠として知られている。

二つには、関田山脈の中央に位置する関田峠。上杉謙信の川中島出兵の道としての大改修、信越国境争いや無断で新道を開いたとした光ヶ原死罪・獄門事件、親鸞聖人にまつわる伝説などが残されている。

三つには、上杉謙信が川中島合戦の最短路として利用した富倉峠(飯山街道)である。これらの峠道は、いずれも口止め番所がおかれ、幹線としての北国街道の脇街道としての役割を果たしていた。

また、斑尾街道と呼ばれ妙高市大鹿から樽本、沼の原湿原(荻原宿)を経由して信濃の国へ入った古道がある。沼の原湿原にはかつて荻原宿と呼ばれ、最も栄えた享保年間(江戸時代中期/1716~1735年)には 75 戸を数えたという記録が残っている。現在は水芭蕉の群生地として、信越トレイルのルートとしてにぎわっている。

久々野峠越えの登山口のなっている柄山集落は、現在 2 戸が生活している。関田山脈一帯は日本でも有数の豪雪地帯で、高田測候所記録集には 1927 年(昭和 2 年)2 月 13 日柄山(当時、寺野村柄山)で 27 尺(8m18 cm)の積雪が記録されている。この数値は人の住む里の記録として例がなく、柄山集落に標柱が建てられている。

また、山寺地区にある丈ヶ山(579.6m)を周辺には、718 年(養老 2)から 759 年(天平末)にかけて行儀菩薩により山寺五山(華園寺・乙宝寺・猿供養寺・仏照寺・天福寺)が開かれ、降盛を極め近郷近在にも関連寺や末寺が建立され「山寺三千坊」と称される大本山があったと言い伝えられている。

現存する建造物は「山寺薬師」のみであるが、「延命清水」や「聖の窟」なども人気スポットとなっている。

関田山脈は日本一の地すべり多発地帯で、猿供養寺地区には人柱供養堂や地すべり資料館があるので、是非立ち寄っていただきたい。

後藤 正弘/記